

Title	<記事>2.臨海実習
Author(s)	
Citation	瀬戸臨海実験所年報 = Annual report of the Seto Marine Biological Laboratory (2002), 15: 2-3
Issue Date	2002-12-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/179008
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

1. 概 要

□平成13年度

◎職員等の移動

- ・ Sun, X. 氏を教務補佐員として受入(平成14年3月1日-5月30日)。
- ・ 藤原秀樹氏・村上知里氏が博士号取得後、退所(平成14年3月31日)。
- ・ 三瀬武史氏が博士後期課程に入学(平成14年4月1日)。
- ・ 伊谷行氏を教務補佐員として受入(平成14年4月1日)。
- ・ 下出信次氏を研修員として受入(平成14年4月1日)。

◎行事・来訪者等

- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(春季)(於お茶の水女子大学, 東京), 白山義久所長出席(平成13年4月16日-4月17日)。
- ・ 時岡隆元実験所長(京都大学名誉教授)が逝去。享年87才(9月30日)。
- ・ 研究支援者として Sun, Xutong 氏(青島海洋大学, 中国)来日(平成13年10月1日-平成14年2月28日)。
- ・ 和田洋助手が日本動物学会奨励賞を受賞(10月7日)。
- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(秋季)及び国立大学臨海臨湖実験所公開臨海実習検討会(於金沢大学能登臨海実験所, 金沢), 久保田信助教授出席(10月26日-10月27日)。
- ・ 防火訓練実施(12月17日)。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報14巻発行(12月25日)。
- ・ 水族館休館(平成13年12月29日-平成14年1月3日)。
- ・ 水族館開館(1月4日)。
- ・ オーストリア・ウィーン大学との学術交流協定に基づく派遣研究者として、宮崎勝己助手がオーストリアへ外国出張(1月16日-2月16日)。
- ・ 運営協議会(於京都大学理学研究科)(1月22日)。
- ・ 研究補助者として奥山牧子氏(科学技術振興事業団)来所(平成14年2月1日-)。

2. 臨 海 実 習

□平成13年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学の臨海実習が下記の通り実施された。

(大学・実習科目・実習期間・受講学生数)

京都大学理学部生物系臨海実習 I	8/4-8/11	延	88人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 I	8/16-8/23	延	80人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 II*	3/12-3/18	延	84人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 III*	3/23-3/28	延	42人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	8/4-8/11	延	24人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	8/16-8/23	延	8人・日
京都大学院人間環境学研究科海洋化学実習	8/27-8/30	延	80人・日
京都大学院人間環境学研究科生物学臨海実習	2/22-2/25	延	64人・日
京都大学総合人間学部自然環境学科環境論実習	8/30-9/2	延	28人・日
京都大学瀬戸臨海実験所公開臨海実習(学部生対象)	3/18-3/24	延	91人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(植物)	4/9-4/13	延	90人・日
大阪千代田短期大学幼児教育科磯観察実習	5/7-5/9	延	51人・日
奈良教育大学教育学部野外実習A-II(臨海実習)	5/10-5/14	延	60人・日

奈良女子大学理学部生物科学臨海実習II	5/21-5/26	延	84人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(動物)	6/20-6/24	延	75人・日
大阪市立大学理学部臨海実習	7/3-7/9	延	154人・日
大阪教育大学教育学部教員養成課程臨海実習	7/18-7/23	延	66人・日
大阪大学理学部生物学臨海実習	7/23-7/28	延	78人・日
京都教育大学生物学夏期実習II	7/30-8/3	延	85人・日
放送大学京都学習センター臨海実習	8/3-8/4	延	36人・日
滋賀県立大学環境科学部自然環境特別実習I・II	8/30-9/2	延	56人・日
滋賀大学教育学部臨海実習	9/3-9/6	延	44人・日

* 前年度末に実施

(計)	京都大学	9件	延	498人・日
	公開臨海実習	1件	延	91人・日
	他大学国立	8件	延	582人・日
	公立	2件	延	210人・日
	私立	2件	延	87人・日
(総計)		22件	延	1468人・日

○公開臨海実習(学部生対象)は「無脊椎動物系統分類学」と題して実施し、横浜国立大学・信州大学・大阪大学・奈良女子大学・山口大学からの学生13名が受講した。

3. 研究会・来訪研究者

下記の研究会が開催された。

○「第13回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Andrey. V. Adrianov (Far East Branch of Russian Academy of Sciences) "Excretory system of peanut worms" (5月9日)

○「第14回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：疋田 努(京都大・院理・動物) "トカゲ属の種分化と生物地理".

倉谷 滋(岡山大・理・生物) "脊椎動物の顎の進化：遺伝子は相同性について何を教えてくれるか?"

清水 健太郎(京都大・院理・植物) "生殖隔離と形態進化—分子遺伝学のモデル植物シロイヌナズナとその近縁種を用いた解析—". (5月15日)

○「第15回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Albrecht Fischer (Institut für Zoologie, Universität Mainz) "Benthic life and pelagic reproduction: Life cycles and reproductive biology of epitokous polychaetes" (10月4日)

(前巻の訂正)

第14巻において、下記のセミナーの記録が抜けていた。この追加に伴い、前巻における「第8～第11回」瀬戸海洋学セミナーを、それぞれ「第9～第12回」に訂正する。

○「第8回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Andy Gooday (Southampton Oceanography Centre, University of Southampton) "Natural history of the deep-sea foraminiferans" (平成12年3月23日)